山口大学医学部附属病院

脳神経内科

【診療科(部)の特色】

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経および筋肉の内科的疾患が診療対象ですが、脳卒中、認知症、てんかん、頭痛などの common disease から、いわゆる" 難病" といわれる未だ確立した治療法の無い疾患まで、片寄りなく幅広く診療を行っております。病床数は 22 床で、パーキンソン病や多系統萎縮症といった変性疾患や多発性硬化症や視神経脊髄炎などの免疫性疾患、遺伝性疾患、感染症、末梢神経疾患など多彩な疾患の診療を行っています。

【研修内容】

入院患者の診療を通して，基本的な神経内科的診察・論理的思考方法を身につけます。

【研修目標】

初期研修として神経内科を 1-2 ヶ月間行うことによる目標・ゴールは以下となります。

- 基本的な神経診察方法を身につけ、正しい神経所見が得られる。
- 神経診察の結果を正しく解釈し、病変部位を確定し、鑑別診断を列挙する。
- 代表的な神経疾患に関する基本的知識を身につける。
- 髄液検査を単独で行うことができ、検査結果を解釈できる。

【研修スケジュール例】

- 指導医と共に 2 名のチーム、あるいは指導医の下に後期研修医が入り、3 名のチームで入院患者さんの診療を担当します。
- 月曜日のカンファレンスでは症例ごとの検査結果を回診の前日に検討します。
- 火曜日の病棟カンファレンスでは各症例について主治医が報告し、症例毎の方針をその場で決定します。
- 症例検討会では入院中の問題症例を取り上げ、発表者（症例担当）と考察者（指導医クラスの医師）を中心にディスカッションを行い、症例の問題点の洗い出し、検査・治療の方針決定を行います。
- 希望者は外来での臨床トレーニングを受けることも可能です。

【キャリアパス】

卒後 7 年以内に総合内科専門医，脳神経内科専門医の取得を目指します。
その他、日本老年医学会、日本脳卒中学会、日本頭痛学会、日本認知症学会、日本リハビリテーション学会、日本てんかん学会の専門医取得が可能です。
大学病院スタッフとして臨床・研究・教育をおこなったり、急性期病院、慢性期病院の部長やスタッフとして勤務したり、クリニック開業したり、研究職についたり、行政で働いたりなど様々なキャリアパスが可能です。

【指導医からのコメント】

医局長　清水　文崇　先生
脳神経内科は「複雑」かつ「シンプル」で「美しい」学問領域である神経を扱っており、日々の診療でも新鮮な発見に満ちています。神経学を深く学ぶとその面白さが必ず分かります。脳神経内科は、問診、診察、患者の話を聞いて考えることが診療に重要な意味を持つという、古くからの内科らしさを持っている診療科です。扱う疾患のバリエーションが豊富で、様々な診療経験ができると思います。
脳神経内科の実習を通じて、全人的な医療の実践、論理的思考の修練、プレゼンテーション能力の向上など、様々なスキルを身につけて医師として成長して欲しいと考えています。
脳神経内科医局はアットホームで雰囲気が良く、楽しく勉強できる環境が整っています。

【先輩（若手医師）からのコメント】

平成 30 年卒　根本　壌　先生
　脳神経内科では，患者の背景・病歴・現症から、病態を想定しながら精密検査を行って診断し、病態に則した治療選択を行っています。そのトレーニングとして、ベッドサイドでの問診・診察で得られた情報を整理し、患者の体の中で実際に何が起こっているのか考えることを繰り返しています。確立した治療法がなければ、どのような治療法が良いかを考えていきます。自分ひとりの力だけでなく、医局員みんなでじっくり考える時もあります。そのため、医局内では若手の医師に限らず、ベテランの医師も交えてディスカッションが良く行われています。脳神経内科をローテーションすれば、この雰囲気を実際に感じていただけると思います。医局員はいつでも相談に応じてくれ、話が脱線しながらも楽しくディスカッションしています。ついつい仕事に打ち込んでしまう神経学の楽しさを実感し、医局の雰囲気の良さを感じることのできる脳神経内科研修をぜひ体験してみてください。

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院　脳神経内科
清水　文崇
TEL：0836-22-2714　E-mail：neuro@yamaguchi-u.ac.jp
Website：http://www.neurol.med.yamaguchi-u.ac.jp